

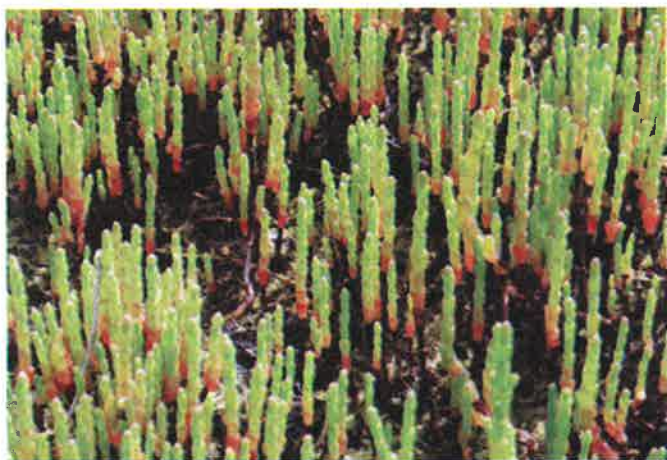
アッケシランドを訪ねた人々



アッケシソウ通信

第7号

平成29年10月



育ち盛りのころ



みどりのアッケシソウを楽しむ会



紅葉



ドローン飛来

「アツケシソウ通信」第七号 によせて

浅口市長 栗山康彦

アツケシソウ通信第七号の発刊を心からお祝い申し上げます。絶滅危惧種に指定されているアツケシソウの自生が寄島で初めて確認された平成十五年から今年で十四年となりました。平成十六年には、「寄島町アツケシソウを守る会」が発足され、会員皆様には、以来十三年もの間、自生地周辺の環境整備を中心に、熱心に保護活動に取り組んでいただいておりますとともに、浅口市指定天然記念物アツケシソウを温かく見守っていただいておりますことを心より感謝申し上げます。

回目となる今年の「緑のアツケシソウを楽しむ会」でも、アツケシソウの貴重な白い花をカメラに収め、心ややかに楽しんでいただけたものと思います。去る九月五日には、開花宣言が「守る会」会長によりなされました。開花宣言を耳にいたしますと、秋の訪れが近いことに加え、アツケシソウの紅葉の訪れも近いことを身感じます。十月中旬には、真紅に紅葉したアツケシソウを自生地C地区の見学者用木道から覗き込んで鑑賞することができますので、ご家族連れや山野草愛好家の方には、じっくりとアツケシソウの可憐な美しさを間近でご堪能いただけるものと期待しております。一面を赤く染め、見事な紅葉を見せてくれるアツケシソウは、本市の貴重な財産です。守る会、地域、学校、ボランティアなど多くの方からのご支援とご協力を得て、次世代の子どもたち、そして未来へとつないでいきますよう、引き続きアツケシソウが大切に守られていくことを願っております。

次世代に胸を張って残せる 「浅口の宝」

寄島アツケシソウを守る会

顧問 作田雅利

平成二十六年七月、私は山陽新聞のコラム「展望台」に次のような記事を掲載したことがあります。

寄島干拓の堤防敷（塩湿地）に自生しているアツケシソウは、国内では北海道と瀬戸内海沿岸のごく一部（香川、愛媛、岡山県）にのみ生育が知られています。

冬季に、親株から自然に落ちた種が春に発芽し、分枝を繰り返して成長する一年草です。秋になると植物全体が緑から紅に変

色し、自生地全体がピンクの絨毯となり、素晴らしい景観を作ります。

アツケシソウは、環境省のレッドリストで絶滅危惧種に指定されており、岡山県のレッドデータブックでも絶滅の危険性が高い種になっています。浅口市では、この希少植物の自生地を市の天然記念物に指定し、「守る会」を作って保護活動に努めています。この地道な努力は、市内外から高く評価されており、平成二十一年には、自生地が県の「景観百選」に選ばれ、同時に守る会の活動が、「県民文化大賞」の栄誉に輝きました。

浅口市は、平成二十五年三月に浅口市環境基本条例に基づく「環境基本計画」を策定しましたが、そのタイトルは「星の瞬き、水の煌めき、緑の優しさがあふれるまち」そして、サブタイトルは「次世代に胸を張って渡せるまちづくり」となっています。

守る会は、「浅口の宝」であるアツケシソウを、胸を張って後世に渡せるよう、微力を尽くしたいと決意を新たにしているところではあります。

この理念は、不滅の誓いとして守っていただきたいと思っております。



感謝をこめて

アツケシソウを守る会と 今後の課題

寄島アツケシソウを守る会

会長 花房泰志

会長就任のご挨拶

アツケシソウを守る会のゆるぎない基盤を確立された応本圭司初代会長。アツケシランドの整備発展に、多大な業績を残された作田雅利二代会長。このような先輩の後を継ぎ、この度三代会長に就任させて頂きました。今日までのお二人の業績を汚すことなく、会長という大任が務まるだろうか、不安と緊張感を抱いての出発となりました。

栗山康彦市長のご理解とご支援。教委文化振興課のご指導。岡山理科大学星野卓二教授のさらなるご指導を賜りますようお願い致します。さらに前会長お二人からの忌憚なきご鞭撻、守る会の皆様方の心合わせての活動とご協力をどうぞよろしくお願い致します。

浅口市の宝物、貴重な天然記念物アツケシソウを守りぬぎ、次代へしっかりと継承したきものと念じております。

次代への確かなる継承を

炎熱の夏の日々をたくましく生きぬき、瑞々しく成長を続ける緑のアツケシソウに心が癒されます。お蔭様でキバガの発生も全く見られず、C地区では今年、最長五〇cmのアツケシソウを記録しました。去る九月九日、昨年にひき続いての第二回「緑のアツケシソウを楽しむ会」も盛況裡に終わり、来訪者から歓声の上がる楽しく有意義な会となりました。

続いて、九月十五日には、寄島小学校五年生三十余名が訪れ、C地区のアツケシソウの開花を熱心に観察し、A地区の広大な美しい緑の景観を見学して帰りま



アツケシソウの開花

した。

年三回の草刈作業に毎年ご参加くださるおかやま山陽高校生徒の皆さん。倉敷スポーツ少年倶楽部の小学生の皆さん。強力な助っ人浅口清掃センターの皆さん。地元小学生の見学会等は、きつと次代への力となり、郷土の文化遺産を守りぬぐ大切な原動力であると確信致します。

アツケシソウ今後の課題

平成十五年、寄島干拓地内でアツケシソウが確認されてから、早くも十四年が経過しました。

アツケシソウに熱い思いを寄せる市当局のご理解と温かいご支援。各方面から

の献身的なボランティア活動。このように周囲の皆様方のご支援によって、アツケシランドは広大な景観を誇り、岡山景観百選の名譽を賜りました。

しかしながら、年々激しさを増す地球温暖化、とりわけ今年のように摂氏三十五度を越す連立の猛暑の中で、アツケシソウはどこまで耐え得るのか、誠に心配であります。

次に、年々高齢化による作業会員減少の現状をどう克服し、さらなる保護活動の継続をどう確保していくか。これらの課題にじっくりと取り組み、頑張つてゆきたいと念じています。



アツケシソウ開花宣言の日に



寄島小学校アツケシソウ見学会

「守る会」研修旅行

鯉が窪湿原を訪ねて

三宅 哲一

四月二十九日の朝、会員十九名を乗せた小型バスは、一路北へ目的地に向かってひた走る。車窓から眺める山並みは朝日を浴びた薄緑の若葉が茂り、目に優しく映っている。

「鯉が窪湿原」（新見市哲西町）は、約三百種類からなる植物が自生しており、その中でも貴重な植物が多数生育する標高約五百五十



シャクナゲ

メートルの中層地にあり、湿原としては極めて珍しく、国の天然記念物に指定されている。

哲西町に入ると一面に広がる田んぼは、既に田植えの出来る状態に仕上がっていた。程なくして鯉が窪湿原に到着するが、周囲は閑散として物静かな景観をかもし出していた。受付を済ませ、ボランティアの方からの湿原についての説明を聞き終え湿原地帯に足を踏み入れると、大きく広がる池の鯉数十四が勢いよく近づいてきて、我々一行を出迎え歓迎してくれた。

池の周りを囲むようにつくられた歩道は、落ち葉に埋もれ、歩くには程よい柔らかさであった。進むにつれて、山の緑に囲まれた自然環境の中で守られている湿原植物たちは、花咲く時を待っているかのように思えた。

その中で、唯一「リュウキンカ」

は春の訪れを待っていたかの様に黄色い花を一斉に咲かせていた。湿原植物には、これから咲くだろう美しい花を、訪れる人達にしっかりと見せてあげてほしい想いを抱きながら、約一時間半の探索を終え、鯉が窪湿原に別れを告げて、バスは次の行き先である三室峡（神郷町）のシャクナゲ自生地を目指して走る。

三室峡のシャクナゲは、清流の向こう側の山の中腹に薄紫色の花を咲かせていた。清流に沿って歩くも、近づく事の出来ない自然に守られた環境であることがよかつたのではと感じた。

今回の研修旅行で思うに、自生植物は、整備され適した環境の中で育成・保護することが必要である事をつくづく感じました。



リュウキンカ

守る会 作業会員（大募集!!）

「守る会」の会員は現在百余名です。会員皆様のご支援とご協力によって、アツケシソウは保護育成されています。

さらに、おかも山陽高校サッカー部・空手部の皆さん、NPO法人倉敷スポーツ倶楽部の小学生と保護者の皆さん、寄島剣道スポーツ少年団の皆さんと保護者の方、浅口清掃センター社員の皆さんの力強いご支援をいただき、会員一同心から感謝を申し上げますと共に励まされ元気を頂いております。「守る会」の草刈等の作業を行う作業会員も高齢化しており、新しい作業会員の加入促進が急がれています。

「作業会員を大募集しています。」

- ①年会費は五百円です。会の運営に充当しています。
- ②年三回（五月・六月・九月）の草刈作業に参加していただきます。
- ③研修旅行を年一回行い、会員の研修と親睦を深めています。
- ④今年のアツケシソウ祭りは十月十四日、二十四日です。多数の参加をお待ちしています。

編集後記

「アツケシソウ通信第七号」を発刊いたします。この発刊にあたり、ご多忙のところ玉稿を早速に賜り紙上より厚くお礼申し上げます。

アツケシソウの生育も例年以上に順調でC地区で最長のもは五十センチメートルもあつたようです。

先日開かれました「緑のアツケシソウを楽しむ会」も年々多くの人が参加されて、協力して下さる私共会員も励みになります。参加者はアツケシソウの小さな花を熱心に観察していました。木道がしっかりと足元を確保していました。市当局の深いご理解と熱いご支援に対し、会員一同心から感謝申し上げます。

浅口市の宝物アツケシソウを、次世代に健全にひき渡すために、皆様のさらなるご支援とご協力をお願い致します。